

伝建地区から学ぶレジリエンスの高い地域とは

災害から守るものの順番を考えると、まず何より命があり、次いで生活を守ることになるであろう。その次に何を守るかと考えた時に、おそらく文化が挙げられるのではないかと。災害の発生直後は、まず人命や生活再建が優先されることは当然であり、文化を守ることを後回しにするのは仕方が無いのかも知れない。しかし、守るべき文化の象徴が町並みであるような地域では、被災後の手当てが遅れれば時間の経過と共に傷みが進み、気付いた時にはマチにもヒトの心にもぽっかりと穴が開いた気持ちになってしまう。そのようなことが無いように、平時からの文化を守る活動を通じて“地域活力を高める”“予防力を高める”“回復力を高める”の3本柱について、地域でしっかりと考え、策を講じていく必要がある。人の暮らしがあるからこそ防災に取り組む意義がある。そして、防災が保存にも繋がり、地域の状態が保たれているからこそ活性化に繋がる。つまり地域の保存・防災・活性化はどれが欠けても成り立たない関係である。建築技術が発達し災害対応の技術も高度化する一方で、人と人との繋がりが防災の基本であることは変わらない。歴史的町並みのような地域で共有すべき中核が存在していることは、それを取り巻く多様なテーマと集まる場が生まれ、町並み内部の人と人、同様の中核を持つ地域間、多主体の外部アクターと地域の間などを繋ぐ効果があり、新たな多様なアクターの参画とそれを繋ぎやすい資質を持つ。その繋がりを普段から築き、情報共有する取り組みは災害時にも役立つ。繋がりは防災に重要な意味を持っているので、この研究プロジェクトで生まれた様々な繋がりを大切に維持し、発展させていくことがこれからの使命と考える。

なお、本研究プロジェクトを通じてレジリエンスの高い地域について考えてみると、次のようなものを備えている地域がレジリエンスの高い地域になり得るのではないだろうか。

- ◆多様なステークホルダーの参画が期待できる中核が存在する。
- ◆若者が地域活動に参画する。
- ◆地域で担い手を育てる場や相互の理解を深める場がある。
- ◆予防力を高める技術促進が地域協働で行える。
- ◆自助・互助・共助・公助の連携が円滑にできる平時からの制度がある。
- ◆同じ関心を持つ人々のネットワークが地域を超えて存在し、平時から繋がりがあがる。

これらの要件は、決して伝建地区や歴史的市街地に限ったものではなく、一般市街地でも展開できることである。したがって、本研究プロジェクトでのアプローチや成果が歴史的市街地に限らず多くの地域で参考にされ、ヒトもマチも輝き続ける安全安心な地域づくりが推進されることを願っている。

本書は、これで完結ではありません。本研究プロジェクトの成果を礎に創出される技術もあれば、永続するまちづくりの中で生まれる新たな知見や情報もあります。また、本書には誤解による不適切な解説や説明が不十分な部分もあるかと思えます。それらを改善して随時更新し、関係する皆様と共有を図っていきたくと考えています。ご指摘や情報提供等がありましたら、巻末の連絡先までご連絡をいただくと幸いです。

■主要研究者およびプロジェクト参画・協力団体

主要研究者(◎:研究代表者、○:グループリーダー)

- 天野 克也 (東京都市大学工学部 教授)
 浦野 正樹 (早稲田大学文学学術院 教授)
 大島 隆一 (小山工業高等専門学校 准教授)
 ○大橋 好光 (東京都市大学工学部 教授)
 苅谷 勇雅 (小山工業高等専門学校 名誉教授)
 河東 義之 (小山工業高等専門学校 名誉教授)
 ○豊川 斎赫 (小山工業高等専門学校 准教授)
 長谷見 雄二 (早稲田大学理工学術院 教授)
 平田 克己 (小山工業高等専門学校 准教授)
 堀場 弘 (東京都市大学工学部 教授)
 八木 雅夫 (明石工業高等専門学校 教授)
 ◎横内 基 (小山工業高等専門学校 准教授)

プロジェクト参画・協力団体

- とちぎ町並みデザイン研究会 KURANE
 嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会
 栃木の例幣使街道を考える会
 栃木蔵街暖簾会
 真壁町登録文化財を活かす会
 ディスカバーまかべ
 NPO法人 ハイジ
 ネットワークとちぎ
 とちぎ蔵の街職人塾
 栃木県建築士会栃木支部
 茨城県建築士会桜川支部
 桐生伝建修習の会
 栃木市教育委員会伝建推進室
 栃木市都市計画課伝建まちづくりチーム
 桜川市教育委員会文化財課
 桜川市都市整備課都市政策グループ
 桐生市総合政策部重伝建まちづくり課
 NPO法人 全国町並み保存連盟

■メンバー一覧(50音順)

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 相蘇 春菜 | 青木 玲子 | 浅川 新 | 浅野 幸子 | 吾妻 周一 |
| 畦柳 友哉 | 阿部 治 | 天野 克也 | 天野 正昭 | 荒井 大悟 |
| 荒木 久瑠美 | 飯泉 春長 | 池田 成介 | 池田 瞭司 | 石川 恵理 |
| 石川 達 | 石川 文雄 | 石栗 太 | 石塚 正浩 | 石本 俊光 |
| 磯部 真緒 | 井田 敦之 | 市塚 邦彦 | 出井 章則 | 伊藤 あかり |
| 伊藤 健吾 | 伊藤 正樹 | 伊藤 里佳子 | 井上 陸生 | 井上 綾大 |
| 今井 文子 | 植田 千尋 | 鵜飼 信行 | 浦野 正樹 | 遠藤 智紀 |
| 大川 緋月 | 大島 隆一 | 大関 隆太郎 | 大波 龍郷 | 大橋 好光 |
| 加來 千紘 | 上総 浩子 | 片嶋 一裕 | 片寄 慎也 | 加藤 詞史 |
| 加藤 誠洋 | 金子 綾花 | 鎌田 萌 | 神谷 美晴 | 神山 悠香 |
| 苅谷 勇雅 | 川島 弘毅 | 川副 早央里 | 川田 浩一 | 河東 義之 |
| 神戸 麻千子 | 菊池 大悟郎 | 木村 成一 | 木村 巧 | 木村 智史 |
| 熊倉 充義 | 小池 英夫 | 國府 泰浩 | 國分 直輝 | 小平 斉 |
| 小林 絢 | 小林 直人 | 小林 優太 | 小張 明日香 | 高麗 夏美 |
| 小室 元貴 | 齋藤 潤一 | 斉藤 巧 | 早乙女 義明 | 酒入 陽子 |
| 阪田 あづみ | 坂巻 連 | 佐藤 秀樹 | 佐山 正樹 | 柴 直人 |
| 島村 昌悟 | 菅谷 諒 | 杉戸 洋 | 杉山 知也 | 鈴木 達朗 |
| 関口 佳織 | 関野 正人 | 大極 勇矢 | 高瀬 咲 | 高瀬 椋 |
| 高橋 碧 | 高橋 蓮 | 高山 哲大 | 武村 実 | 田所 玲奈 |
| 田中 庸史 | 田村 菜月 | 寺内 ひなの | 寺崎 大貴 | 殿塚 治 |
| 豊川 斎赫 | 中島 平 | 中野 裕晶 | 中村 絹江 | 永山 樹 |
| 浪川 稜馬 | 仁平 昌則 | 野川 翔太 | 野村 佳亮 | 橋爪 友介 |
| 橋本 啓太 | 橋本 優 | 長谷 秀人 | 長谷見 雄二 | 原 崇之 |
| 樋口 美早紀 | 平川 千紗 | 平田 克己 | 平山 大悟 | 廣瀬 暢男 |
| 弘中 敏之 | 福士 貴仁 | 星井 友香理 | 堀場 弘 | 牧田 昭二 |
| 松園 立樹 | 松本 泰輔 | 宮津 裕次 | 村上 翔子 | 森 麻美 |
| 森村 慧 | 八木 雅夫 | 安井 昇 | 柳 裕斗 | 山田 俊亮 |
| 山之内 隆志 | 山本 兵一 | 横内 基 | 横倉 悟史 | 横塚 玲奈 |

■地域デザイン雑記帳 執筆者(50音順)

相蘇 春菜	石川 達	石栗 太
伊藤 あかり	伊藤 健吾	今井 文子
植田 千尋	大島 隆一	大波 龍郷
菊池 大悟郎	國分 直樹	佐藤 秀樹
大極 勇矢	高橋 蓮	豊川 斎赫
野村 佳亮	長谷見 雄二	福士 貴仁
堀場 弘	横内 基	

歴史的町並みを護り、ヒトもマチも輝き続けるための、地域デザイン雑記帳

2016年3月18日 第1版 発行

発行 「伝統的建造物群保存地区における総合防災事業の開発」プロジェクト

監修 横内 基

編集 野村 佳亮

デザイン 石川 達

■本書に関する問合せ

小山工業高等専門学校 横内研究室

〒323-0806 栃木県小山市中久喜 771

TEL: 0285-20-2837

E-mail: yokouchi@oyama-ct.ac.jp
